



目次

- ◇青森まるっとよいどころ祭り～青森ひみつ発県！リンゴだけじゃねえべ？～
開催報告 1
- 2016年度からの新たな取り組み 2
- ◇2016年度 あおもり立志挑戦塾 全日程終了 2
- ◇地域文化教育に関する情報発信～青森県の人材(人財)養成～ 3
- ◇外国語講座－ことばと文化・英文学・観光英語・ビジネス英語・TOEIC対策－ 3
- ◇大学院公開セミナー グローバル化時代の地域創生－青森経済の活性化－ 4

青森まるっとよいどころ祭り～青森ひみつ発県！リンゴだけじゃねえべ？～ 開催報告

2016年10月1日(土)、青森市新町商店街の歩行者天国と新町キューブにおいて、本学主催、香取薫研究室プロデュース、青森市新町商店街振興組合後援の『青森まるっとよいどころ祭り～青森ひみつ発県！リンゴだけじゃねえべ？～』を開催しました。同新町商店街振興組合主催の「しんまちフェスタ 青い森のハロウィン」等も同日に開催され、多くの方にご来場いただき、盛況のうちに終了しました。

3度目の開催となる今回は、県内から青森市、鱈ヶ沢町、今別町、おいらせ町、風間浦村、佐井村、七戸町、外ヶ浜町、南部町、西目屋村の市町村に加え、本学周辺町会の雲谷町会にもご参加いただきました。また、学術連携協定を結ぶ公立はこだて未来大学からも資料提供の形で出展のご参加をいただきました。結果、計12団体のご協力のもと、過去最大規模で開催することができました。

当日は、開始時刻の午前10時から多くの来場者があり、午後3時の終了時刻を待たずして商品が完売するブースが出るほど盛り上がりました。

毎年ご好評をいただいている本事業は、会場の設計からイベント企画まで学生が行っていますが、毎回のご要望にできる限り応えるべく、改善を重ねています。今回は、本学の「まちなか大学祭」とも連携し、新町キューブ内や周辺で、音響サークルやねぶた囃子サークルなどのパフォーマンスも披露され、賑やかさを演出し、多くの来場者の方にお楽しみいただきました。また、学生が企画した地域の情報を発信する「我がまちいいとこ自慢コーナー」やそれと連動した「青森まるわかり味ソゴ」、学生が出展地域を訪れて撮影した「青森地域観光PR動画放映」にも多くの来場者の注目が集まりました。

今年度も各自治体や出展者、来場者からのアンケート調査の集計結果を基に、十分な検証を重ね、来年度以降の継続と発展を目指します。結果の一部は、今後、本ニューズレターでも取り上げます。

本事業は、本学と青森市で結ぶ連携協定に基づき、中心市街地活性化を目指して実施した事業です。本学が青森地域の多様な方々と連携を重ね、地域経済活性化のために積極的に行動することで少しでも地域に貢献しながら、実践的な経営経済研究や教育の機会となっています。今後も多くの地域の方々と一緒に様々な事業が展開されます。ご期待ください。



開会宣言をする香取薫学長兼地域研究センター長(左)と会場の様子(中)(右)

青森まるっとよいどころ祭り～青森ひみつ発掘!リンゴだけじゃねえべ?～ 2016年度からの新たな取り組み

青森まるっとよいどころ祭りでは、毎年、学生が考えた企画が多く展開されています。その中から、今年度特に力を入れた取り組みをご紹介します。

1つ目は、「新町商店街ぶらっと診断チャート」の作成です。このチャートは、学生が調べた新町商店街のお店を紹介するだけでなく、それぞれの興味関心に沿ってチャートの質問にYes or Noで進むことによって、新町商店街にあるおすすめのお店を見つけることができるように設計されています。手に取った来場者は、チャートをたどりながらそれぞれに合ったお店を見つけていました。祭りの当日に配布したほか、現在もアウガ6階の「青森公立大学まちなカラボ」に設置配布していますので、お立ち寄りの際はぜひお持ちください。

2つ目は、「青森まるわり味リンゴ」です。当日お越しいただいた方にビンゴカードを配布し、買い物や学生考案のクイズに正解するとスタンプがもらえ、ビンゴが成立すると抽選で各地域の豪華賞品が当たる、という企画です。新町商店街の店舗に行くとスタンプをもらえる仕組みにもなっており、この企画を通して青森市外のことだけでなく、青森市の中心市街地のことも知っていただけたかと思います。

今後も、各企画を検証し、その結果を踏まえて既存企画の改善や新しいアイデアが次々に生まれるかもしれません。



新町商店街ぶらっと診断チャート



青森まるわり味リンゴの抽選の様子

2016年度 あおもり立志挑戦塾 全日程終了

本学が青森県とあおもり立志挑戦の会 (ARC) の協働で行う人材育成プロジェクト「あおもり立志挑戦塾」が、11月5日(土)、6日(日)の第6回をもって今年度のすべての日程を終えました。

塾では、一貫して青森地域で活躍する人材を育成するために様々な活動をしてきました。塾長と各回講師の講演聴講では、多様な分野のプロフェッショナルから知識だけでなく、考え方や取り組みに対する情熱など生き方そのものを学んでいました。

また、学んだ内容を応用するため、塾生同士の議論も多くおこなわれました。グループディスカッション、フィールドワーク、ワールドカフェ、ラーニングバーなどの手法を用いて、他者との相互理解や思いやりの心について塾生同士で学んでいました。

最終回では、塾生一人ひとりが、地域住民としていかに生きるか反映させた自身の「死亡広告」を作成するという課題に挑戦し、それぞれの「志」がどのようなものか考えながら取り組んでいました。発表では、入塾時に比べ、人生の目標が明確になり、自信をもって発表する塾生の姿がありました。発表後は、塾長と地域研究センターの中西廣研究員からそれぞれコメントがありました。

全6回の塾を通して、塾生は実りある学びを手にしたようでした。また、同士の親交も深まり、県内の人的ネットワークも広がり深みを増しています。

今年度の塾の成果は、これから塾生の自主性に基づいて、来年2月に開催される「知事報告会」にて発表される予定で、塾生は報告会に向けて今までの塾の振り返りだけでなく、次なるアクションを考えています。



塾生の発表にコメントする中西廣研究員

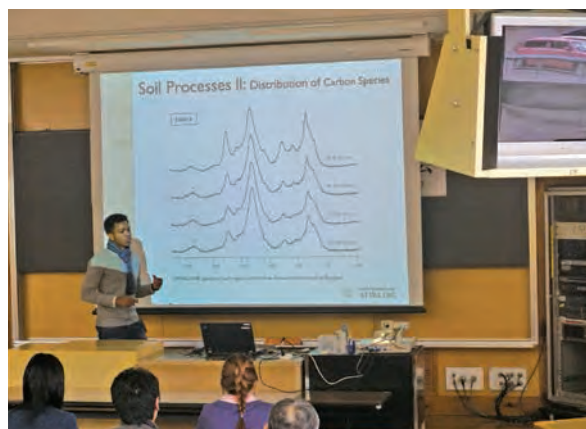
地域文化教育に関する情報発信～青森県の人材(人財)養成～

今年度の本センター自主事業である「地域文化教育に関する情報発信～青森県の人材(人財)養成～」に関連して、10月29日(土)に本学で開催された「地域文化教育学会」の中で、英国スターリング大学のBenneth O.I. Esiana博士による講演『Soil—a 'Finite' Resource』が行われたほか、地域・文化・教育に関する多様な研究発表も行われました。

講演では、「土壌」に関して、これまでの人間の営みによってその劣化が問題として顕在化する中、その有限である資源を機能を失うことなく持続可能に利用し続けるために、土壌とそれに関する多くのことを理解することの重要性を指摘しました。

その他、観光や言語、教育に関する多くの研究発表が行われました。すべての講演・研究発表は、広く市民に開放されており、参加者である研究者や学生、市民が熱心に聞き入っていました。

質疑応答では、活発な意見交換が交わされ、盛況のうちに終了しました。



基調講演を行うBenneth O.I. Esiana博士

外国語講座

～ことばと文化・英文学・観光英語・ビジネス英語・TOEIC対策～

今年度の外国語講座は、フェスティバルシティ・アウガ5階男女共同参画プラザ「カダール」研修室と6階の「青森公立大学まちなかラボ」で7月から9月にかけて、順次開講されました。

今年度は、講義形式で言語と文化の関係から外国語学習のヒントを学ぶ「ことばと文化」と、英国の著名な作品を読み解く「英文学」(初級)が新たに設けられ、昨年度までも開講されてきた「観光英語」(初級・中級)、「ビジネス英語」(初級)、「TOEIC対策」(500点・700点)と合わせて全7コースが展開されました。

受講者の皆様は、講義に聞き入ったり、それぞれの講師や他の受講者の方とのコミュニケーションを楽しみながら学んでいました。

延べ116名の方に受講いただき、講座終了後には多くの活発な質疑応答が交わされました。終了後に実施したアンケートには、多くのご好評をいただきました。以下に一部をご紹介します。



ことばと文化 担当:香取真理教授

ご意見・ご感想

- 初めて受講したのですが、わかりやすくとても楽しく聞けました。大学進学を目指している高校生で、英語が苦手だったのですが、今回の講座をうけて外国語へのイメージが変わり、もっと学んでみたいとなりました。ただ言葉として学ぶだけでなく、文化として見ることにチャレンジしていきたいと思います。
- 言葉や異文化、外国語を話すためのコツなどについてを知ることができて良かったです。特に異文化、言語に関しては普段学べないようなことをたくさん聴けて、とても興味深い内容だったのでおもしろかったです。

ご意見・ご感想

- 初めて英文学にふれました。教材が読みやすく、日本語のようにすんなり頭に入ってきました。とてもいいきっかけを作ってくれたことに感謝しています。
- 1時間という短い時間の講座ですが、内容は濃密でした。文法や解き方のコツだけでなく、勉強方法も具体的に教えて頂きました。語学を学ぶモチベーションが高まりました。



TOEIC対策(700点) 担当:丹藤永也准教授

大学院公開セミナー グローバル化時代の地域創生－青森経済の活性化－

本講座は、フェスティバルシティ・アウガ5階男女共同参画プラザ「カダール」研修室で、以下の日程と内容で開講されました。本学大学院の担当教員が、「グローバル化時代の地域創生」を共通テーマに各自の専門的視点から青森経済の活性化に向けた具体的な提言を発表しました。

第1回	6月 7日(火)	グローバル化時代の地域労働市場
第2回	6月14日(火)	市場とプラットフォーム－地方創生に向けての企業の戦略－
第3回	6月21日(火)	地方創生の地域経営－地域イノベーションと革新的自治体経営の視点から－
第4回	6月28日(火)	地域の活性化と地方創生を推進するICT利活用
第5回	7月 5日(火)	地方創生と国際貿易

延べ201名の方に受講いただき、本学大学院で学べることを知っていただけたと思います。受講後は、多くのご意見やご質問をきっかけに、活発な議論が展開され、大盛況のうちに終了しました。

講座後のアンケートでは、多くのご意見・ご感想をいただきましたので、一部をご紹介します。

ご意見・ご感想

- 視野を広げ世界を比較することによって多くのことを得られるということがわかった。
- 行政改革を行うためには、すべての人が持っている潜在的な能力を引き出して、内発的なモチベーションを高められるようなシステムを作っていかなければならないということが分かり、ただ改革を進めるだけではダメだということが分かった。
- TPPのメリットやデメリット、青森県での影響などをよく知ることができた。農家だけでなく農家と政府や民間と農家とのかかわりが大切だと思った。



グローバル化時代の地域労働市場 担当：富岡淳講師



市場とプラットフォーム 担当：小寺俊樹講師

多目的サテライト 青森公立大学まちなかラボ



本学の教職員、学生とともに、地域社会に関する研究、各種プロジェクトを行う際のディスカッションの場、地域振興、産学官連携に関する相談窓口として、ご利用下さい。

〒030-0801 青森市新町1-3-7 フェスティバルシティ・アウガ6階
 電話：017-718-7025 Fax：017-776-2082
 E-mail: lab@b.nebuta.ac.jp
<http://www.nebuta.ac.jp/chiken/machinaka-lab/>
 開室時間 13:00～21:00

(毎週日曜日、年末年始、アウガ全館休館日、5～8階公共施設休館日は、休業いたします。)